

ASIA Indicators

定例経済指標レポート

堅調な景気を反映した豪州の追加利上げ(Asia Weekly (4/26~4/30))

~インフレ圧力は依然として高止まりが続く~

発表日:2010年5月6日(木)

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 西濱 徹 (03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
4/26 (月)	(シンガポール) 3月鉱工業生産 (前年比)	+43.0%	+30.3%	+17.9%
	(前月比/季調済)	▲1.5%	▲4.0%	+5.2%
4/27 (火)	(韓国) 1-3月期実質 GDP (前年比/速報値)	+7.8%	+7.5%	+6.0%
	(前期比/季調済/速報値)	+1.8%	+1.5%	+0.2%
	(香港) 3月輸出 (前年比)	+32.1%	+25.2%	+28.5%
	3月輸入 (前年比)	+39.8%	+27.9%	+22.4%
4/28 (水)	(豪州) 1-3月期消費者物価 (前年比)	+2.9%	+2.8%	+2.1%
	(前期比/季調済)	+0.9%	+0.8%	+0.5%
4/29 (木)	(ニュージーランド) 金融政策決定会合 (政策金利)	2.50%	2.50%	2.50%
	3月輸出 (十億 NZ ドル)	4.06	3.72	3.33
	3月輸入 (十億 NZ ドル)	3.49	3.33	2.99
4/30 (金)	(韓国) 3月鉱工業生産 (前年比)	+22.1%	+19.8%	+18.8%
	(前月比/季調済)	+1.6%	+0.5%	+3.3%
	(シンガポール) 1-3月期失業率 (季調済)	2.2%	2.1%	2.3%
	(タイ) 3月輸出 (前年比)	+41.0%		+23.5%
	3月輸入 (前年比)	+62.0%		+80.8%
	3月製造業生産高 (前年比)	+32.6%	+26.0%	+30.5%
	(前月比/季調済)	+0.7%		+3.3%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[豪州] ~好調な景気を背景にインフレ圧力高まる、先行きも漸進的な利上げが行われる見通し~

28日に発表された1-3月期の消費者物価は、前年同期比+2.9%と前期(同+2.1%)から加速し、前期比も+0.9%と前期(同+0.5%)から伸びが拡大した。国際商品市況の高騰によって食料品を中心に価格上昇圧力が高まっているほか、景気回復による雇用・所得環境の改善でサービス価格でも上昇圧力が強まっている。同国は主要国の中で最も早く利上げに踏み切り、これまで計5回、累計125bpの利上げを行うなど金融引き締めを進めているが、海外資金の流入圧力もあって市中の資金供給量は拡大しており、過剰流動性が不動産をはじめとする資産価格の上昇を引き起こすなど資産バブルの懸念も高まっている。

4日の金融政策決定会合では、3ヶ月連続で25bpの利上げが行われ、当局はこれまでの予想に比べてインフレ率が高止まりする可能性を示唆している。なお、市中金利が過去数年の平均水準に近付いているとの見方を示しており、今後の金融引き締めは緩やかなペースになると見込まれる。

図1 豪州 消費者物価の推移(前年比)



図2 豪州 雇用環境の推移

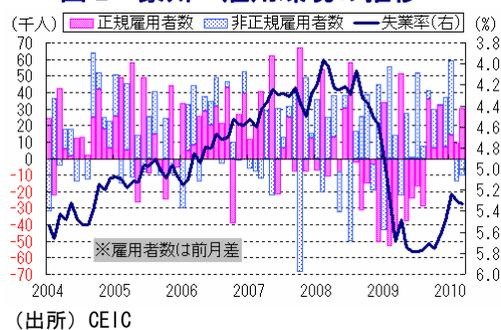
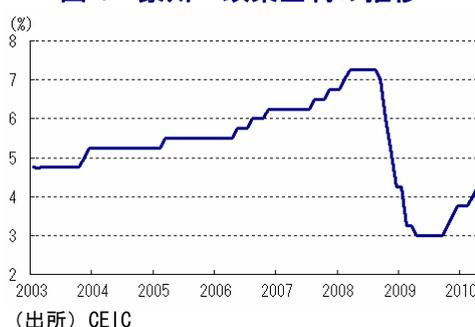


図3 豪州 マネーストック(M3)の推移



図4 豪州 政策金利の推移



[シンガポール] ~3月の生産は予想外に強く 1-3月期の GDP 統計は上方修正の可能性も~

26日に発表された3月の鉱工業生産は、前月比(季調済) ▲1.5%と前月(同+5.2%)から減少に転じた。3ヶ月連続で大幅に拡大した反動が出たものの減少は小幅に留まった。なお、同国政府は先月初めに1-3月期の実質 GDP 成長率が前期比年率+32.1%と四半期ベースで史上最高の伸びを示すとの予測値を発表していたが、これは1~2月の実績値に基づき作成されており、特に製造業部門は前年比+30.0%拡大すると見込まれていた。一方、3月実績を踏まえた1-3月期の鉱工業生産は前年比+33.2%と政府の予測を上回る拡大であったため、今月発表される1-3月期の GDP 統計では上方修正が行われるであろう。世界経済の回復を背景に3月の輸出も前月比プラスが続いており、4月以降も生産の拡大が続くと予想される。

30日に発表された1-3月期の失業率(季調済)は2.2%と前期(同2.3%)から0.1p改善した。昨年4-6月期を底に雇用者数は増加しており、1-3月期の高成長を牽引した製造業やサービス業で雇用が拡大している。雇用・所得環境の改善によって個人消費も復調し、3月の消費者物価は前年同月比+1.6%、前月比(季調済)+0.4%と徐々に上昇している。金融当局は先月、通貨SGドルの実質切り上げを容認する金融引き締めを舵を切っているが、今後も段階的に引き締めを図ると予想される。

図5 シンガポール 鉱工業生産の推移

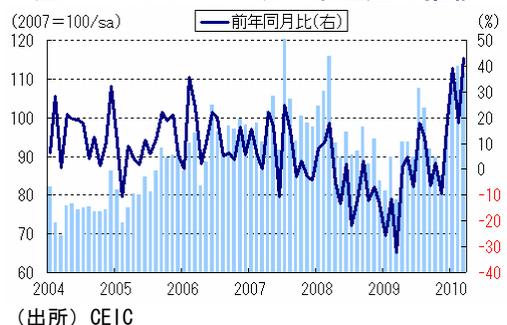


図6 シンガポール 実質 GDP 成長率の推移(前年比)

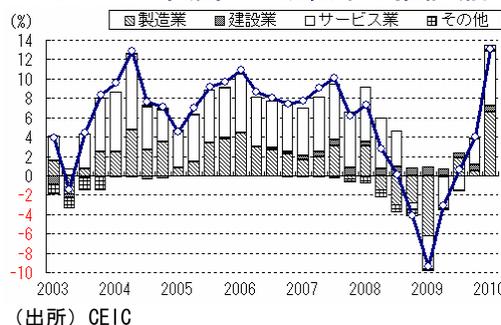


図7 シンガポール 雇用環境の推移



図8 シンガポール 消費者物価の推移(前年比)



【タイ】 ～世界経済の回復を受けて輸出・生産の拡大が続くも、国内混乱の影響が懸念される～

30日に発表された3月の輸出は、前年同月比+41.0%と前月(同+23.5%)から拡大し、前月比も+12.8%と大幅に増加した。春節明けの中国・香港向け輸出が拡大したほか、米国や日本など先進国向けも回復した。一方の輸入は前年同月比+62.0%と前月(同+80.8%)から鈍化したものの、旺盛な内需を反映して前月比+8.1%と拡大した。なお、輸出が輸入を上回る拡大となったことから、貿易黒字は+11.56億ドルと前月(同+4.39億ドル)から拡大している。

また、同日に発表された3月の鉱工業生産は、前年同月比+32.6%と前月(同+30.5%)から拡大し、前月比(季調済)も+0.7%と前月(同+3.3%)から増加している。輸出の拡大もあり、3月の設備稼働率は全業種平均で68%と金融危機前の水準まで回復しており、一部の業種では90%を上回っている。ただし、3月末以降の政治混乱の影響は懸念され、今後の動向には注意が必要である。

図9 タイ 輸出入の推移(前年比)

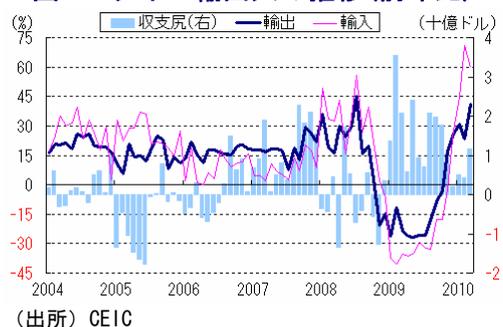


図10 タイ 中国・香港向け輸出額の推移

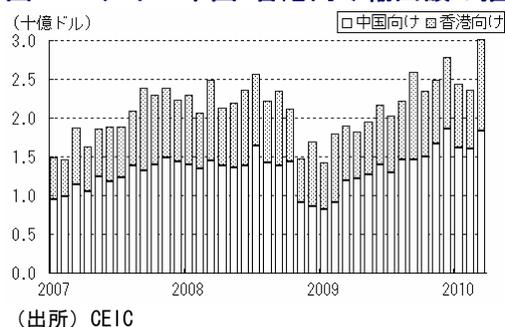
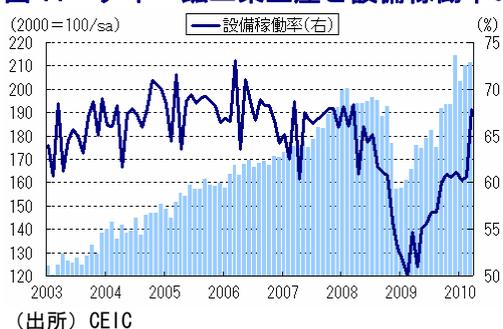


図11 タイ 鉱工業生産と設備稼働率の推移



以上